

東洋大学 歴史的快挙達成!

1月2日・3日に行われた第八十八回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)。東洋大学は今までの記録を8分以上更新し、10時間51分36秒の大会新記録で二年ぶり三度目の総合優勝を果たしました。往路・復路ともに大会記録を樹立し、区間新記録二人、区間賞四人という快挙。さらに、主将を務めた柏原竜二選手は、自身三度目の金栗四三杯(最優秀選手賞)を受賞。川越キャンパスに活動拠点を置く同大学陸上競技部の快挙を、多くの人が祝いました。



1月18日、川越市長に報告に訪れた東洋大学陸上競技部の皆さん
多くの報道陣が集まりました



大学内の食堂で行われた祝賀会には、登録選手16人のうち15人が参加

川越キャンパスの優勝報告会には一般の方を含む500人以上が参加。市内の女性は「初めて柏原君の走りを見たときに衝撃を受けました。実際に見ると細くてびっくり」。「大学生の柏原君を見る最後のチャンスなので」と長野から来た方も。



祝賀会で乾杯! 今回の優勝を祝う選手の皆さん

東洋大学学長・竹村牧男さん(写真右)と喜びを分かち合う選手の皆さん。川上遼平さん(4年・写真左)は「川越に住む人や周囲で支えてくれる多くの人の力があって、走ることができる。そのありがたさを実感しています」。



日ごろトレーニングで市内を走っていると、市民の皆さんから声援をいただけます。また、選手がよく行く近くの食堂は、12月31日も店を開けてくれました。多くの方に支えられて今回の結果が得られたと思います。来年の箱根も優勝できるように頑張ります。「小江戸川越マラソン」が公認の大会になって、マラソンが川越に根付くといいですね。



酒井俊幸監督

メディアの注目が高い中で、最後の箱根を楽しむことができました。川越は住むのに便利なまちだと思います。また、練習で市内中心部を走ったときに、古い町並みを見て「おもしろいな」と思いました。これからは被災した出身地・福島や東北のために、自分のできることをしつつ、ロンドンオリンピック出場を実現するために頑張ります。



柏原竜二主将(四年)